

この度は、エレバグモード付きメモリーキーヤーをお買い上げいただき、誠に有り難うございました。

1. GK609A の特徴

- ① リグ 3 台 (RIG A.B.C) を切り替えて 使用できます
- ② イヤホン端子があり、イヤホンの使用や CW 解読器と繋ご自分の符号の解読(確認)が出来ます
- ③ アイアンビックモード(通称エレキー)の他にエレバグモードがあり、バグキーの様に任意の長さの長点が出せます
- ④ エレバグモードでは、短点と長点との間のスペースが、規定の長さ(短点 1 つ分)に自動的に補正されます
これにより、エレキーの気軽さで、バグキーライクな符号が打ち出せます
- ⑤ アイアンビックモードとエレバグモードは、モード切替スイッチで簡単に切り替えられます
(アイアンビックモードでは、左右のツマミの同時押し(スクイズ操作)で、短点と長点の交互の連続符号が出ます)
- ⑥ 再生中に割り込みが可能(再生中に一旦停止が出来、キー操作が出来ます)
- ⑦ ハンドキーの端子(縦振キーやバグキー、複式キー等)があり、エレキーとの即座の切り替え使用が出来、その符号の記録/送出手が可能です
- ⑧ 通常の操作の他に付加機能設定として、デモモード、自動 CQ モード、リピートモード(①全CH、②CH4とCH8のみ)などアドファンクションを付加設定できます
- ⑨ モニター音も内蔵 (このクラスとしては大きな音量です)
- ⑩ メモリーは不揮発性であり、スイッチを切っても、内容が消えません
- ⑪ 単四電池 2 本で動作し、不使用時に殆ど電流を消費せず、電源スイッチを切り忘れても問題ありません

2. 使い方

2.1 準備

まず電池が入っていることを確認します。電池は単四が 2 本です。(出荷時実装)

交換時は電池交換用フタのネジ 2 本を外し、電池のマイナス側を奥にして入れます、2 本とも同じ向きです。

次に、パドルを付属のミニステレオプラグ付きコードに接続し、本体左面の Padle 端子に繋がります。

ここで、POW(電源)スイッチをONにします。

SPEED(スピード)と MON(モニター)のツマミは、中央に合わせておきます。

2.2 アイアンビックモードでのオペレーション

一番左のE KEY(エレキー)とE BUG(エレバグキー)のモード切替スイッチをE KEYにします。これでアイアンビックモード(通称エレキー)になります。

動作は、一般的なエレキーヤーとなります。(通常の右手操作の時は親指が短点、人差し指が長点となります、左右ツマミの同時押し(スクイズ操作)で、短点と長点の交互の連続符号が出ます)

モニターの音量をツマミで合わせます、またスピードツマミで、好みのスピードに合わせます。

2.3 エレバグモードでのオペレーション

モード切替スイッチをE BUGにします。これでエレバグモードの動作になります。

パドルの長点を長く押し、ながーい長点が出る事を確認します。長点は任意長で、短点とスペースは自動で整えられます。長点と短点の間のスペースや長点同士の間スペースは、パドル操作が短すぎても、きれいに調整された信号

になります。(一般的なセミアレキーと違い、綺麗な符号が出ます)

ダブルレバーのパドルでも、後押しレバーが優先しますので、動作的にシングルレバーとなり大変操作し易くなっております。(本機の特徴の一つで画期的です)

3. メッセージメモリーの使い方

3.1 メモリーチャンネル

メモリーチャンネルは、8チャンネルあり、これをCH1からCH4までの4個のプッシュスイッチ A、B、C、Dと中央のCHシフトスイッチを用いて操作します。

(CHシフトスイッチを下側に倒すとCH5からCH8までになります)

3.2 メッセージの記録

(メッセージを記録する時は、キーヤーのモニター音を使います)

メッセージを記録する時は、各チャンネルのプッシュスイッチを2秒ほど長押しします。

すると、モニターから“R”が聞こえるので、聞こえているうちに手を離してください。

するとさらに、“BT”が聞こえます。“R”と“BT”は、通常、違ったスピードで聞こえます。“BT”のスピードが、現在のスピード設定つまみの位置によるものです。

“BT”の後、パドルを操作してメモリーにメッセージを入力(記録)します。

エレバグモードの場合はエレバグの信号が、アイアンビックの場合はアイアンビックモードで記録されます。(メッセージ記録中に、モード変更は出来ません)

ワード間のスペースも、操作した通りの長さで記録されます。(最大で短点40個分)

メッセージ記録が終わったら、もう一度プッシュスイッチ(どれでも良い)を押してください。

すると、キーヤーは“AR”をモニターから出して、メッセージ記録を終了します。

メモリーが一杯になると、キーヤーは勝手に“AR”を出してメッセージ記録を終了します。

なお、メッセージ記録中は、本体側面のRIG端子には記録中のメッセージは出力されません。

(モニター音でキー操作して下さい。ただし、付加機能設定でデモモードに設定しておけば、記録中のメッセージが出力されます。この場合も記録中のモードの変更は出来ません)

3.3 メッセージの削除

記録したメッセージを削除したい場合は、“BT”のあと、何も入力しないでプッシュスイッチを押します。キーヤーは、“T”の音を出して、そのチャンネルのメモリーを削除します。

入力で間違った場合は、プッシュスイッチを押してメッセージの記録を一旦終了し、上記の操作で削除するか、上書きします。

3.4 メッセージの再生、停止

メッセージを再生するには、各チャンネルのプッシュスイッチを短く押します。

(長押しすると、メッセージの記録になってしまいます)

スイッチを離したら、すぐに再生が始まります。記録したときのモードで再生されます。

再生後は自動停止します

途中で止めるときには、長点パドルを一度押します。(CH1とCH2 又は CH3とCH4の同時押しでも可)

再生しようとした、メモリーが空の場合は、キーヤーは“T”をモニターから出すだけです。

3.5 再生中の割り込み

メッセージの再生中にもう一度どれかのボタンを押すと一旦停止し、キー操作が出来ます。更にもう一度どれかのボタンを押すと再生を継続します。(工夫次第で面白い使い方が出来ます)

4. ハンドキーの信号記録

エレバグモードで、スピードを最大に設定し、本体左面の **Hand Key** の端子にハンドキー(縦振キー、バグキー、複式キーなど)を3.5ミリのモノラルプラグで差し込みます、スピードツマミは MAXにします、これらキーの信号を記録することが出来ます。

記録開始の“BT“は、耳にも止まらない(?)スピードになりますが、これは無視します。

何でも打ってみてください。再生すると、記録したとおりに聞こえます。

5. ハンドキーの補正動作

エレバグモードで、スピードを普通に設定し、それと同じようなスピードでハンドキーを操作すると、手ではうまくとれなかったスペースが挿入され、聞きやすい符号になります。複式キー特有の符号の粘りの改善もできます(メモリーに記録しても、同様のスペース補正付きで記録されます)

また、ハンドキーのスピードが余り速くなるとキーヤーがついてこなくなるので、適当にキーヤーの方のスピードを調節してください。

逆にキーヤーのスピードを早くしていくと、スペースの補正の程度が少なくなっていきます。スピードを最大とすると、スペースの補正が殆ど無くなり、マニュアルで打った殆どそのままの信号が出力され、また、記録されるようになります。

6. メモリーのサイズ

記録できる文字数は、モード、入力する符号、スペースの長さによって変化します。次の記録文字数が各チャンネルの目安です。(アイアンビックモードで、8つのCH合計で最大6,000文字)

アイアンビックモード: およそ750字

エレバグモード: およそ375字

マニュアルキーの場合: およそ225字

(注意事項)

- リグのキー入力は**ストレートキー**用にして下さい。
- 製品のデザイン、仕様等は、予告無く変更することがあります。
- **GK609A** を真空管式リグに**直接接続する事は出来ません**。(キー端子に高圧がかかっているためです)
- 電池は**液漏れ**する事が有ります、1年に1度は下ケースの電池交換用フタのネジ2本を外し**電池の交換**をして下さい。(電池のマイナス側を奥に差し込みます、電池は2本とも同じ向きです)
- リグとの接続には**付属の単芯シールドコード**をお使いください。リグ側のプラグは別途ご用意下さい。
(リグによってプラグの種類が違う為です)
- プリント基板は取り外さないで下さい。(取り外すと**初期の性能**が発揮出来なくなります)

GK609A 付加機能(アッドオンファンクション)の設定

付加機能(アッドオンファンクション)として、次の4つのモードを設定することができます。

必要に応じて設定し、活用して下さい。

- ① デモモード: メッセージ記録時に、モニター信号を[出力]にも出す。(通常は、内蔵モニター音のみ)
- ② 自動CQモード: CH2のみで設定可能で、自動で一連のCQを2回出力する。
- ③ リpeatモードA: 全CHで、記録したメッセージを繰り返し出力できるようになる。(A:All)
- ④ リpeatモードS: CH4とCH8で、記録したメッセージを繰り返し出力できるようになる。(S:Selected)

●各モードの設定手順は、次ページのチャートのようになります。

下記は自動CQモード設定の例です、自局のコールサインが未入力の場合は、次のようになります。

- ①スイッチCとスイッチDを長押しします。“**CBT**”が聞こえたらスイッチから手を離します。
- ②自局のコールサインをパドルの操作で入力します。(何も入力せずA、B、C、Dのいずれかのスイッチを押すと、モニターから“**T**”が出て、入力されたコールサインは削除されます)
- ③スイッチBを押します“**AR**”が出ます。
これでコールサイン入力は終わりました。

次に、CH2に自動CQモードの設定をします。

- ⑤ CHスイッチを上側(CH1-4)にします。
- ⑥ スイッチAとBを同時に長押しします。“**?**”が聞こえたらスイッチから手を離します。
- ⑦ スイッチBを長押しし“**R**”が出たら手を離します。(これで設定完了です)
- ⑧もう一度スイッチBを押すと自動CQが出ます。



モード切替スイッチ

A

B

CHスイッチ

C

D

POW スイッチ

RIG 切り替えスイッチ

RIG A は左側面、RIG BとCは右側面になります

付加機能(アドオンファンクション)の各モードの設定手順

① **スイッチ A**と**スイッチ B**を同時に長く(2秒位)押す→モニターから“?”が出たらスイッチから手を離す。

② 次に ←

アドオン ファンクション	押すスイッチ	スイッチを長く押す(2秒位) ファンクションON	スイッチを短く押す ファンクションOFF
デモモード	スイッチ A	記録時もモニター信号を出力にも出す	解除
自動CQ(CH2のみ)	スイッチ B	自動で一連のCQを2回出力	解除
リピードモードA	スイッチ C	全CHとも リピートモード	解除
リピードモードS	スイッチ D	CH4とCH8が リピートモード	解除

モニターから“R”

モニターから“N”

③設定完了 ←

(注意事項)

- CH に記録したメッセージの送達が完了していない時やCHボタンを押して一時停止している時に、別のCHに記録したメッセージを送出することはできません。長音パドルを押して送達を中止するか、メッセージ送達の終了を確認してから、送達したい CHボタンを押してください。
- CH2が自動CQモードに設定されている場合、リピートモードAに設定しても、CH2はリピートモードにならない。(自動CQモードが優先)
- 設定の全解除(オールクリア)は、一度 **POW スイッチ**を切り**スイッチ A**を押しながら **POW スイッチ**を **ON**にしてください。

AモードとBモードについて

- ・エレキヤーのモードには2つあり、出荷時はBモードになっています
- ・モードの切り替えは **スイッチ B**を押したまま **POW スイッチ**を **ON**する毎に AモードとBモードが切り替わります(Aモードになったときはスピーカーよりトツと出ます、Bモードになったときはツートトとなります)
- ・スクイズ操作をした時に符号が一つ多く出ると感じた時は Aモードにします
- ・スクイズ操作をした時に符号が一つ少ないと感じた時は Bモードにします

(注意事項)

- リグとの接続は**付属の1芯コード**をお使い下さい。
(リグのキー入力は、ストレートキー用にして下さい)
- リグ側のプラグはリグによってプラグの種類が異なりますのでお客様でご用意願います。

株式会社 GHD キー

〒981-3326 宮城県富谷市明石下向田 24-14

Tel:022-779-0681 Fax:022-779-0682